

織田信長、

大船で高島を攻める

元龜4年（1573）5月22日、織田信長は、將軍足利義昭が戦備を整えているとの情報を得たため、彦根の佐和山城下の松原において、急遽、巨大な船の建造に取りかかります。

『信長公記』によると、信長は大船の建造にあたり、のちに安土城天

主建設の大工頭を務める岡部又右衛門を棟梁に任命します。

船は「長さ30間（約60m）、幅7間（約14m）とし、艫を100挺備えさせ、艫（船尾）と舳（船首）に櫓（展望がきく背の高い建物）をつくり、堅固なつくり」にするよう又右衛門に命じました。そして、自らも昼夜を問わず、現場を監督しました。これにより船は同年7月5日に完成し、その大きさは多くの人々を驚かせました。

出来上がった大船は、現在、琵琶湖に浮かぶ船の中で、最も大きい「ピアンカ」が全長約66m・幅約12mなので、ほぼこれに匹敵する大きさです。

7月26日、信長はこの大船に乗って高島郡に出陣します。

現在、高島市内に残る田屋城、清水山城、田中城の中心地からは、琵琶湖を一望することができます。当時も大船で信長が攻めてくる様子が、これら

の城からもうかがえたことでしょう。

『信長公記』には、高島郡の攻撃の様子について「陸から木戸・田中西城を攻め、琵琶湖からも大船をつけ、信長直属の馬廻（騎馬の武士）によって攻めたため、城主は降参し、城を退いた。信長は木戸・田中西城を明智光秀に与えた」と記しています。

そして、信長は、高島郡内の浅井久政・長政の知行所（領地）に馬をすずめたのち、林与次左衛門（員清）の所（打下）に陣をおき、高島郡内に兵を放つて放火させ、高島郡を攻略しました。文献上に見られる大船の利用は二度限りで、天正4年（1576）に、信長は「大船入らず（＝不要）」とし、早舟10艘に造り替えられます。

理由として、義昭が没落したことや、近江の支配が安定し、この年に安土城の築城が始まっていることから、大船を軍事的に、そして威圧的に利用する

必要がなくなったことが考えられ、移動が目的の早舟に造り替えられたものと思われまます。

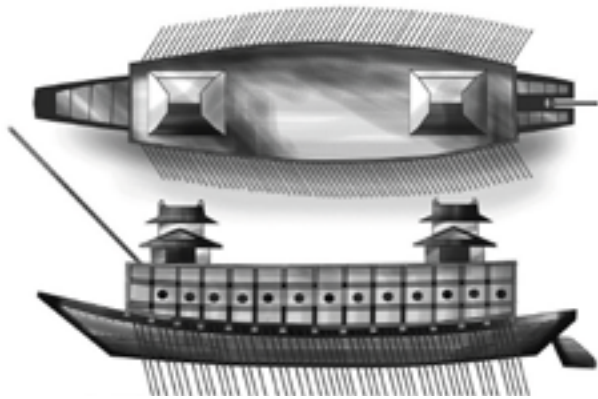
信長にとって高島郡の攻略は、近江平定への大きな足がかりとなりました。約半月後に小谷から敗走する朝倉氏を、さらに半月後には浅井氏を小谷城に攻め滅ぼします。高島の佐々木一族は、織田信長との攻防の中で、いかに行動したのでしょいか。

10月29日（土）午後1時から開催するフォーラム『高島の佐々木七氏と清水山城』では、浅井・朝倉氏との関わりを交えつつ、佐々木一族の活躍をご報告いたします。皆さんぜひご参加ください。（フォーラムの詳細は、広報9月号をご覧ください。）

図文化財課 ☎(057)4467

編集者のつぶやき

▼9月に入り大型の台風が続き、日本各地に甚大な被害を与えました。自然の脅威を改めて感じさせられます。
▼表紙は、マキノ東小学校の自然教室のようす。5・6年生が2日間にわたり、カヌーで湖上往復約30kmを漕波しました。長い道のりを経てゴールした子どもたちは、達成感でいっぱいの顔に。自然や地域に触れ、友だちと協力することの大切さを学ばれました。
(広報担当S)



▲信長の大船（想像図）